妊娠後期の患者様へ

ご家庭での
感染対策強化のお願い

現在の新型コロナウイルス感染拡大の状況については

患者様やご家族様も大変心配されている事と思います

皆様が新型コロナウイルスにかからないために

今一度ご家庭での感染対策の強化をお願い致します

現在の新型コロナウイルスの状況は？

1 感染力の増強　感染力の強い変異株が流行しています

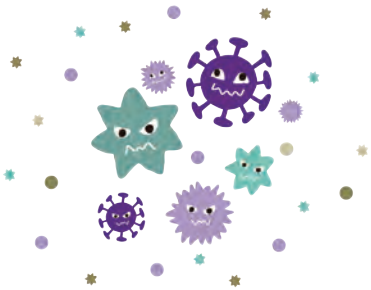
新型コロナウイルスは主に下記の２つの感染経路で人から人へ感染します。

飛沫感染	**会話や咳などで口などからウイルスが飛ぶことにより周囲に感染する**
接触感染	**口から飛んだウイルスが手や物などに付着し、それを触ることにより感染する**

さらに蒸発した飛沫が空気中を漂い、それを吸い込むことによる **空気感染** も起こります。現在流行している変異株は、これまでの株より数倍感染力が強くなっています。また、空気感染に近い性質があるため、ウレタン製や布製マスクでは防御が難しいと考えられていますので、日ごろから**不織布マスク**の装着をお願いします。

2 感染の状況　妊婦さんと同年代の感染が増えています

ワクチン接種が進み、高齢者の感染者数が減少し、現在の主な感染者は**２０～３０歳代**です。また、**家庭内感染**が急増しています。出産を控えている妊婦のご家族様は、年齢的にも行動範囲の広い方が多いため、徹底した感染対策をお願い致します。



コロナワクチンを接種したら感染しない？

3 ２回のワクチン接種を済ませた方の感染対策について

ワクチン接種が済んでも感染対策は続けましょう

２回のワクチン接種後から２週間経過しますと、コロナウィルスへの免疫力は高まり、感染した場合の重症化率は低いと言われています。しかし、**感染する可能性は十分あります**ので、マスク、手洗い、うがいを心掛け、人が集まる場所には出来るだけ近づかない事が大切です。

もし感染したら？ 濃厚接触者になったら？

4 妊娠後期（妊娠８か月以降）に感染した場合

特に妊娠 36 週以降に感染した場合は、内科的治療（新型コロナウイルスの治療）・分娩管理・新生児管理（赤ちゃんへの治療）をすべて行える**高次医療施設に転院または緊急搬送**することがほとんどです。また、治療のできる近隣の医療施設も限られており、遠方の施設への転院になることもあります。

妊娠 36 週以前に感染した場合も、早産の兆候など産科的な異常がある場合は同様に転院となります。

＊赤ちゃんへの影響は別紙を参照してください

5 妊娠後期に濃厚接触者となった場合

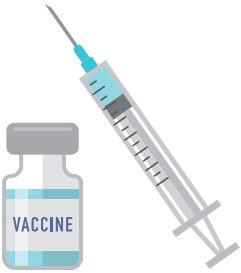
濃厚接触者の場合は PCR 検査で陰性を確認されても、感染者との最終接触以降**２週間の自宅待機**となります。２週間は発症する可能性があるという事であり、妊娠週数や母体の状態によっては感染した場合と同様に他施設への転院を行なう場合があります。

同居のご家族の方へ

家庭外での感染予防を十分に行なってください。妊婦さんのコロナ感染については家庭内における同居のご家族の方から感染するケースがほとんどです。妊婦さんが感染することなく、安全に当院で出産して頂くためには、ご家族の皆様の感染予防や健康管理が非常に重要です。

今一度、下記の基本的な感染予防対策をお守りくださいますようお願い申し上げます。

1. 手指消毒をこまめに行なってください
2. 職場や学校など不特定多数の人が集まるところではマスクを外さないでください
3. マスクは適切に着けて下さい（不織布マスクが推奨されます）
4. 換気が悪い場所の利用を避けてください
5. 感染対策が取られていない場所での飲食を避けてください
6. できるだけワクチン接種を受けることをお勧めします



妊娠中に新型コロナウイルスに感染した場合の

赤ちゃんへの影響

1 早産（37 週未満で生まれること）になるリスクが少し高くなります。

週数によりますが、未熟な状態で生まれてくるとたくさんの治療が必要となり、ＮＩＣＵに入院することになります。

2 主治医の判断になりますが、分娩様式は帝王切開が一般的です。

経腟分娩に比べて、出生後の赤ちゃんの呼吸がしんどくなるリスクが高くなります。

3 感染中に分娩になった場合、しばらく赤ちゃんに会うことができません。

妊娠中のお腹の赤ちゃんへの感染はまれですが、出生後は一緒に過ごすことで赤ちゃんにも感染することがあります。お母さんの隔離期間が終わるまで一緒に過ごすことができません。

4 赤ちゃんも感染するかもしれません。

赤ちゃんは無症状や軽症が多く、重症化はまれですが、症状が出て入院が必要になることもあります。